

独創力

2024. 1. 31

「独創力」というものがある。できれば身につけたい力である。ある先生が、一般向けに行われた講演会で、幼い男の子を抱いて前の席に座っているお母さんに「その子を独創力のある子に育てたいと思いますか」と聞いた。「もちろん」と答えたお母さんに、「そのためにあなたは どう育てるつもりですか」と聞いた。そのお母さんは、「独創力を発揮するには自由でなければならないから、この子がやりたいと思ったことは何でもやらせます」と答えた。

先生は、天井を見てしばらく考えていたが「あなたは数年すると、絶望するでしょうな」と言った。「何でも好きにやって独創力がつくのならチンパンジーには皆、独創力がある」と。

先生が続けて言われるには「人間には意志というものがあって、自分にはこれをやりたいという思いにどこまでも固執しなければならない。いったんやりたいと思ったことは、絶対にやり遂げるという気持ちがなければ、やっぱり何もできない。一度決心したことは、石にしがみついてもやり遂げる強い意志が必要だ」と。

第二には、「過去にどんな人がいて、何をやったかを徹底的に学習しないとだめだ。アインシュタインは、ニュートンのことを徹底的に学習して、ニュートンが考えることはすべて分かるという状態にまでなった。そうやって初めて、ニュートンの分からないことが分かるようになった。だから、過去の人がやったことを決して馬鹿にしてはいけない。これまで先人が残した考えの上に乗っかって、初めて新しいことが生まれる。だから、徹底的に勉強しなければいけない」と言った。

自分のことを考えてみた。ある時期、国語教育を中心に、先人たちの実践記録などを読んだことがあった。だいぶ前の話なのだが、全く古さを感じさせない。十分に今の時代にも通用する。日本の教育スタイルは、もう長い間、基本的には変わってはいない。先人の教育から学べることはたくさんある。先人たちが残してくれた貴重な財産を、あまりにもないがしろにしてきたのではなからうか。もっと目を向けるべきではないのか。

教室に行き授業をしていた頃は、いつも授業のアイデアを考えていた。本も読んだ。テレビなどからヒントを得ることもあった。教育の先人たちの本を読んではいたが、ある先人のことを徹底的に学習して、その先人のことはすべて分かるという状態にまでは至ってはいない。読んだといっても、大村はま先生の本で10冊くらいだろうか。勢いがついて、〇〇〇〇全集といったものを購入したこともあった。だが、ほとんど読んではいない。それでも、やる気だけはあった。

学校の先生は、もう少し本を読んだほうがよい。もっと先人に学んだほうがよい。そうしないと、とてもとても授業の独創力を発揮することなどできそうもない。人は過去から学ぶことが多い。